

# 留 学 報 告 書

記入日:2014年08月30日



所属学部／研究科・学科／専攻	理工学研究科機械工学専攻
留学先国	マレーシア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: マレーシア日本国際工科院 現地言語: Malaysia Japan International Institute of Technology
留学期間	2013年8月～2014年8月
留学した時の学年	1年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	Mechanical Precision Engineering
帰国年月日	2014年8月21日
明治大学卒業予定年	2016年3月
<b>留学先大学について</b>	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月上旬～1月上旬 2学期:2月中旬～7月下旬
学生数	
創立年	2012年

留学費用項目	現地通貨(RM)	円	備考
授業料		円	大学側が直接支払いしたため分かりません
宿舍費	9,600	288,000円	宿舍月額 800RM
食費	8,400	252,000円	
図書費	0	0円	
学用品費	1,000	30,000円	授業用教材、研究参考図書、英語教材
教養娯楽費	0	0円	
被服費	1,500	45,000円	スーツ等
医療費	0	0円	
保険費	4,330	129,740円	形態:大学指定東京海上保険
渡航旅費	5,327	159,770円	マレーシア航空
雑費	820	25,200円	
その他	1,600	60,000円	TOEFL 受講費 2回分
その他	600	1,800円	携帯通信料
その他	2,000	60,000円	旅費
合計	34,677	1,007,510円	

## 渡航関連

**渡航経路:**東京(成田) — マレーシア(クアラルンプール)

渡航費用

チケットの種類	正規航空券
往路	98,570 円 (約 3,287 MYR)
復路	2,040 MYR (約 612,100 円)
合計	159,770 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

ガイドブックは地球の歩き方を使用しました。

## 滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

大学の宿舎

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数 )

3)住居を探した方法:

明治大学側が居住場所を予め準備したため、住居は探していません。

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

本大学はクアラルンプールの中心に位置しているため、必要な物はほとんど現地調達できます。住居についてですが、協定校留学は受入先大学の寮に住まなくてはいけません。候補としては BATC、KSJ があります。BATC は個室でキャンパス内に位置しているため便利ですが、KSJ は二人一部屋でバスでの登校です。(8 分程) KSJ は安いかつ学部生のほとんどが滞在しているため一緒に学習するにはいいですが、日本人からしてみても不便であることが多い(お湯が出ない、ダニの繁殖等)なのでお勧めしません。

## 現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった  
利用した: 大学内に医務室があったため、風邪を引いた際はそちらを利用しました。

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

あまり大きな問題は起きなかったものの、何かあった際は担当教官に相談するようにしていました。留学先には留学生向けの相談窓口があります。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

クアラルンプール日本人会にて、危険地域などの情報収集を行いました。防犯対策は夜間は出歩かない、可能な限り現地人と行動することでした。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

ごく稀ですが学内でネットが使えなくなります。これは寮内でも同じです。しかし、気になるほど高頻度でネットが使えなくなるということはありませんでした。寮で使用出来ない際は近場のカフェに行きました。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

インターネットバンキング(SBIレミット)を利用し、日本の銀行から振込みを行いました。マネーグラムが利用できる銀行窓口にて現金を調達していました。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

特にありません。日本の製品もほとんどクアラルンプールで入手することができます。価格は割高ですが。

## 進路について

1) 進路
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
9 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません (理由: 明治大学を休学した上で留学したため、単位互換は原則としてできなかったからです。)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Advanced precision engineering	精密機械特論
科目設置学部・研究科	Precision engineering
履修期間	2013年9月中旬～2014年1月上旬
単位数	3
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(パワーポイントを用いる)、実習(工作機械の使用方法)
授業時間数	1週間に180分が14回
担当教授	Dr. Aminudin b HJ.Abu, Dr. Aung Lwin Moe
授業内容	製品の誤差の定義, 計算の仕方 切削加工・研磨加工 工作機械の使い方(ワイヤカット)
試験・課題など	試験: なし 課題: プレゼンテーション 3 回(内容は配布された論文について又は自ら選択)
感想を自由記入	授業内容自体はあまり難しくなかったと記憶しています。しかし、課題である論文を読み、内容についてプレゼンテーションをするというのは論文自体が少し難しかったです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Advanced material engineering	応用力学特論
科目設置学部・研究科	Precision engineering
履修期間	2013年9月中旬～2014年1月上旬
単位数	3
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(パワーポイントを用いる)
授業時間数	1週間に180分が14回
担当教授	桑野 範之
授業内容	<p>金属の状態図の読み方(主に鉄鋼を例として挙げている)</p> <p>材料の疲労と強度</p> <p>形状記憶合金の原理・性質・特徴</p> <p>ピエゾ材料の原理・性質・特徴</p> <p>カーボンナノチューブの原理・性質・特徴</p> <p>当初の授業は材料科学に近い分野を先生が予定していましたが、私が材料科学についての授業は一切学んだ経験がなかったため急遽内容が変更しました。翌年は同じ内容かどうかはわかりません。</p>
試験・課題など	<p>課題はレポート二回(材料の引張試験や TTT 線図)とプレゼンテーション(形状記憶合金やピエゾ材料の新応用についてのアイデアを考える)が何回かできた。プレゼンテーションは教授からのフィードバックを得て何回か繰り返すため詳しい回数覚えていません。</p> <p>試験は期末のみで大問4問2時間程だったと思います。</p>
感想を自由記入	私の研究内容に近かったため非常に興味深い授業となりました。先生がプレゼンテーションの仕方について詳しく教えてくれることも大変ためになる教科でした。また先生は日本人でも授業は英語です。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Advanced applied engineering	応用力学特論
科目設置学部・研究科	Precision Engineering
履修期間	2013年9月中旬～2014年1月上旬
単位数	3
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(パワーポイントを用いる)
授業時間数	1週間に180分が14回
担当教授	Dr. Toh Hoong Thiam
授業内容	<p>行列、テンソル、微分・積分</p> <p>弾性体の構成式</p> <p>ラグランジュとオイラーの方程式</p> <p>古典流体力学</p>
試験・課題など	<p>課題は計4回あり、三回は計算、一回はレポートです。レポート内容は連続体力学は実用でどのように使用されているかでした。</p> <p>試験は期末のみです。</p>
感想を自由記入	比較的計算をこなすという授業であり、研究内容が材料の解析について扱っていない限り、この授業を取っても活かす機会があまりないと感じた。また、授業は少しストイックであり、ついていくのが大変だった。

### 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2012年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	
2013年 1月～3月	
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月下旬：留学準備(TOEFL、入学志願書の記入)</li> <li>5月中旬：入学志願書の提出、学内選考(面接)</li> <li>6月中旬：研究室の選択</li> <li>7月上旬：明治大学主催留学生向けオリエンテーション</li> </ul>
8月～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月上旬：入学許可証の入手</li> <li>8月中旬：留学開始</li> <li>9月上旬：入学手続き、ビザ(査証)申請</li> <li>※ 2014年度から、ビザ申請は入国前に終了させる必要があるようです。</li> <li>9月中旬：授業開始</li> </ul>
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月中旬：Mid semester break (一週間)</li> </ul>
2014年 1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月上旬：期末試験</li> <li>1月中旬：試験休み</li> <li>3月上旬：2nd Semester 開始</li> </ul>
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月下旬～8月中旬：断食(ラマダンー毎年変更)</li> <li>8月下旬：帰国</li> </ul>
8月～9月	
10月～12月	

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	近年、社会では英語能力が高い人材が求められています。これらの能力は単にTOEICのようなリーディング・リスニングスキルだけでなく、スピーキング・ライティングも含まれています。社会に出た後、各個人が望めば英語能力を伸ばすことはできるでしょう。しかし、仕事と並行して勉強をすることは難しい、また会社側からの支援・補助がない限り、海外で長期滞在することは難しいと感じました。そのため、私は社会人になる前に英語の勉強を最優先と考え留学を決意しました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	私は留学前に日常会話についてのみ、重点的に勉強を行いました。なぜなら、日常生活での英語に苦勞しては、大学での授業・研究に支障が生じると考えていたからです。これらの準備が無駄だったというわけではないのですが、これらの準備より日本についての知識(文化・伝統・政治)について学び、英語で説明できるよう努力すれば良かったと考えています。なぜなら、私が想像していた以上に様々な方から日本についての質問を受けたからです。やはりこれらの質問に回答できないのは非常に恥ずかしいことであると同時に、会話を膨らませるチャンス、せっかく英語を話すことができる機会が奪われてしまうからです。それ以外では、英語に対してどれだけ拒絶反応を無くせるかということに気をしていれば良かったかと思っています。急に全ての授業、日常会話が英語だとしても疲れてしまいます。ネットではフリーの大学講義を見れるサイトもあるのでそちらを活用すべきだったと後悔しています。
この留学先を選んだ理由	当初は英語圏に留学をすることしか考えていませんでした。しかし、学部時代にカナダに短期留学した際に、日本人のあまりの多さに驚きました。このような環境で英語を話せる自信が私にはなかった、また予算の関係上難しいことから、東南アジアへの留学を考えました。東南アジアはフィリピンやシンガポールが英語を母国語として見なされています。しかし、インフラや予算の関係上、英語が外国語でありながら英語能力が高いマレーシアへの留学を決意しました。
大学・学生の雰囲気	マレーシア人は性格が穏やかな方が多いため、日本人から見ると少し緩い印象を受けました。また、気さくな方が多いため、友達作りに心配するようなことはありませんでした。大学の雰囲気としてはあまり日本の大学と大きく異なるようなことを感じさせないと思います。
寮の雰囲気	私の宿泊施設(BATC)は留学生向けの小さなホステルであり、価格も多少高かったため、Ph.D コースの年輩の方(40,50代)ばかりでした。そのため学生同士の活動は一切行われず、コモンルームで会ったときは少し会話をする程度でした。そのため寮内は常に静かで何事にも集中できる良い環境だったかと思います。ローカルの学生はKSJというホステル(二人一部屋)に泊まっている方が大半であったため、何かの学生イベントがある際はそちらの方に足を運んでいました。
交友関係	担当教官のご好意で、留学した次の日から山口大学の短期研修プログラムに参加させて頂きました。そちらに参加していたローカルの学部生と仲良くなって以降は、食事をしたり、旅行にいたりしました。私は大学院生であるため、日中は院生の方と時間を共にしていました。しかし、彼らの大半は既に既婚していたり子供がいるため、夕方には帰宅し、土日は家族で過ごすため、学部生と遊ぶ機会が多かったです。私の場合は少し特殊なケースですが、私は留学先の初日本人であったため、友達作りや遊び相手に苦勞することはあまりありませんでした。
困ったこと、大変だったこと	やはりいきなり英語の授業を1時間というのは、集中力が保てず大変でした。また、授業内容もなかなか理解できず歯痒い思いもしました。これらに関しては、もはや慣れるしかありません。留学前にしておけばよかったことにも記載しています。また研究についてですが、新しい大学であるため研究設備が整っていない、研究予算が潤沢でないこともあり、思うように実験ができないことが困りました。その他にもディーゼルエンジンの騒音が苦情となり、エンジンを動かせないこともあったのも大変でした。それ以外では、私が日本人初の留学生かつマスターコースの授業開講初年度での参加などがあったため、授業が開講されるのか、どこでどういう手続きをしていいのか等が手探りの状況で大変でした。
学習内容・勉強について	私は明治大学では金属材料についての研究を行っていました。しかし、留学先では改めて自分の研究内容とは異なるディーゼルエンジンについての研究を行っていました。このことから全く基礎がない状態、英語での専門用語もわからない状況でした。しかし、粘り強く先輩に聞くことで、何とか実験前に知識を得ることができました。



課題・試験について	普段はあまり課題の数が多くないのですが、試験前の12月(前期の期末試験は1/2)からレポートやプレゼンが急に増えます。 課題の量としてはあまり多くなかったのですが、慣れない英語でのレポートやプレゼンの準備は予想以上に時間が掛かったこと、授業を履修しているのが私だけだったこともあり、3、4回程再提出することもあり大変でした。
大学外の活動について	大学外以外の活動ではクアラルンプールの日本人会でテニス、居合道などのグループに入り、マレーシアに出向している日本人会社員の方とコミュニケーションを取っていました。
留学を志す人へ	留学というのは中々ハードルが高いイメージがあります。確かに留学するにあたる手続きは面倒であり、慣れない英語で志望動機や研究テーマを書かないといけないとなると、そのようなイメージになるのも無理はありません。それだけでなく、いざ留学先に行くと、居心地の良い環境から一転して意思疎通すら難しい状況に陥ることも容易に推測できます。しかし、日本を出たらもう逃げることはできません。このような状況に追い込まれると、人間どうとでもなるものです。目先の不安や惰性的な感情にとらわれず、留学後の輝いている自分を想像し、目標に向かって努力してください。

## 一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	研究	研究	研究	研究	研究	テニス	テニス
	研究	研究	研究	ミーティング	研究	テニス	英語学習 (TOEFL)
午後	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	ミーティング	昼食・休憩	映画鑑賞	学部生との 交流
	実験	英語学習 (TOEFL)	実験	英語学習 (TOEFL)	実験	学部生との 交流	学部生との 交流
夕刻	実験	英語学習 (TOEFL)	実験	英語学習 (TOEFL)	実験	学部生との 交流	夕食
夜	夕食 日本語講座 (教える側)	夕食 研究室内で 雑談	夕食 報告書作成	夕食 研究室内で 雑談	夕食 日本語講座 (教える側)	食事会	英語学習 (TOEFL)